



## 介護保険導入へ初会合

介護保険導入に向けた美唄市高齢者保健福祉計画と介護保険事業計画策定委員会の初会合が2月23日(火)市役所で開かれた。市民公募で選ばれた3人を含む医療、福祉関係者や市民団体代表18名の委員からなり、10月までに2つの計画をまとめる予定という。宝崎美唄歯科医師会会長も医療関係代表として出席した。

この問題は道内では2、3年前からすぐ隣の奈井江、浦臼地区が札幌北部地区と共にモデル地区に指定され、その後広域化の全国モデルケースとして、奈井江町など中空知の1市5町でつくる空知中部広域連合(本部奈井江町内)に昨年度12

月までに全国から100団体近く視察団が訪れていて、今年に入ってから2日に1団体以上のペースで視察があり、最近では福祉関係の雑誌や新聞各社の取材も急増している。これまでは介護認定や介護サービスを管理するシステム見学が視察目的の中心だったが、最近では広域化への取り組み方、具体的な事業化計画を学びたいというケースが目立っているという。同連合は広域化の長所と短所を示した上で、注意点を指摘。広域化により人件費や事務費用の経費削減や介護認定に対する住民の不公平感が解消されるなどメリットは大きいことを理解しながらも、広域化が市町村合併に結びつかないかと懸念している面も多いらしく、計画を手探りつつ具体的事業化に不安を感じている全国自治体が多いと話す。道内有数の福祉の都市を公約として目指している郷土美唄の、介護保険制度の悔いのない導入を期待する。厚生省によると、全国で約7割の自治体が広域化を計画中というが。

(雨田 実記)